



樽病だより

こころ

第1巻 第2号

発行日

平成18年5月

小樽病院広報委員会

電話25-1211

患者の皆さま方へ

病院長 鈴木 隆

日ごろ、当院をご利用いただきありがとうございます。患者さま方のご快癒を願いつつ、一方で内科など一部の診療科で待ち時間が短縮できないことにおわび申し上げます。

すでにマスクコミなどで報道されてご承知と存じますが、全国的に多くの病院で医師の引き上げが問題になっており、当院もその例外ではありません。特に内科については、この4月の新年度から医師は往時の半数となっております。このため内科を受診される患者さま方には大変なご苦勞をおかけしております。もちろん医師の増員に努力しているところですが、これには時間がかかります。このため待ち時間を解消する手段として、症状が比較的安定している患者さまには待ち時間の少ない近医（ホームドクター）を紹介させていただきたいと存じます。そして半年に1回か1年に1回程度当院にいられて検査を受け、また具合が悪くなったときは当院に入院して治療を受けていただきたいと考えております。当院の患者さまとして、一方で近くのホームドクターをかりつけ医として両方をかけもっていただき、これらの連携がスムーズにいけることを念じております。

また患者の皆さま方に快適な療養環境を提供させていただくには一刻も早い新病院の完成が待たれます。しかし、そのときまでこのままでよいと考えているわけではありません。当院の職員たちが、快適で効率的な療養・診療環境を話し合い、今年度には病院内の一部改修工事が始まります。そのときは皆さま方に一時ご不便をおかけするかもしれませんが、古い建物を少しでもよりよくするためですのでご理解のほどお願い申し上げます。これらすべては、患者の皆さま方の新病院が一刻も早く完成することを切望しての私たち職員一同の思いであります。



北海道の花粉症

健康のはなし



アレルギー性鼻炎にはハウスダスト、ダニが原因でおきる通年性のものと、花粉による季節性のもの（花粉症）に大きく分けられます。

今回お話しする花粉症の原因となる花粉にはさまざまなものがあり、春にはスギ、シラカバ、ハンノキ、初夏にはカモガヤ、初秋にはブタクサ、ヨモギなどがあります。スギ花粉症は北海道では道南地方のみで、北海道に特徴的な花粉症はシラカバです。これら花粉によって鼻の症状、つまりくしゃみ、鼻水、鼻づまりが生じます。また目のかゆみを伴うことも多くあります。

興味深いことに、シラカバ花粉症の40〜50%に口腔（こうくう）アレルギー症候群を合併します。これはある種の食べ物によって口の中がかゆくなったり、腫れたりします。さらに呼吸が苦しくなったり、じんましん、腹痛、下痢、ぜんそくをおこしたり、ショックを引き起こすこともあります。原因となる食べ物にはリンゴ、モモ、サクランボといったバラ科の果物が非常に多く、さらにキウイ、メロンも比較的多いです。したがって、口腔アレルギー症候群

市立小樽病院基本理念

優しさと思いやり

- ・ 市民に信頼され、満足していただける、安全な病院を目指します
- ・ 市立病院としての誇りを持ち、地域に貢献できる病院を目指します
- ・ 患者さまと私たちが勇気と希望を共有できる病院を目指します

のある方は原因となっている食べ物をさける必要があります。

治療には内服薬と点鼻薬があり、これらのいずれか、または両方を使用します。スギに関しては減感作療法という体質改善もありますが、シラカバに対しては現在日本では行われていません。薬の治療で症状がよくならないときは手術で鼻の粘膜を切除したり、レーザーで粘膜をやいたりすることもあります。レーザーは特に鼻づまりに対しては効果的です。

花粉症の診断には血液で花粉に対する抗体（こうたい）というものを調べる必要があります。心当たりのある方は耳鼻咽喉科で検査することをお勧めします。（耳鼻咽喉科 松井利憲）



薬の副作用について



ほとんどすべての薬には本来の作用のほかに副作用という好ましくない作用があります。しかし、多くの場合副作用の起こる確率は百人から千人に対して数人となっており、正しく薬を服用している限り必要以上に心配することはありません。

病気を治したり、症状を軽くするためには適切な薬を正しく服用することが大切です。指示された時間・量を守らず服用した場合、十分な薬の効果が得られないばかりか、好ましくない副作用の起こる確率も高くなってしまいます。

副作用には、症状も軽く特に心配のないものがほとんどですが、多少副作用があっても治療上の必要性が高い場合には、副作用の程度を観察しながら服用をつづけることもあります。

また、薬が体質に合わないなど、服用してみても初めてわかる場合もありますので何か変だなと感じたときは、医師・薬剤師にご相談下さい。

(主任薬剤師 松原 浩司)



市立病院新築準備室

スタッフ増員

市立病院新築準備室は、市立小樽病院と市立第二病院を統合して、新病院を建設するため、平成13年4月に設置されました。ことしで6年目に入りますが、いよいよ基本設計などの本格的な作業に入ります。このため、技術職員2名、また、医療情報システムの導入のため、IT担当職員1名のスタッフが加わり、総勢7名体制となりました。

新病院については、市立病院新築検討懇話会の提言や両院長をはじめとする両院スタッフによる検討を経て、平成15年6月に「新市立病院基本構想」を策定し、さらに二度の見直しを行い、昨年11月最終的な構想をまとめました。

今年度は、財政的な手立てについて道や国とさらに具体的な協議を行います。建設地は、ウイングベイ山側の「築港114番」に特定して、築港地区の土地利用計画を変更します。新病院の基本設計などの建設計画に着手し、平成23年秋ごろの開院を目指します。

現在の病院は、老朽化が著しく、医療環境が悪化しています。医師の確保も大変厳しい状況で患者さまにはご不便をおかけしております。また、二つの病院を経営していることにより薬局や検査、事務など重複した部門を抱えるなど、非経済的な運営形態となっております。

ます。これが厳しい経営状況の一因となっております。

そのため一日も早く新病院が完成し、快適な環境のもとで医療サービスの提供や効率的で安定的な病院経営を行っていくことが必要です。スタッフ一同新たな気持ちで頑張っていけますので今後ともよろしく願います。

「小児科の入院患者受け入れ休止」と「産科の休診」のお知らせ

4月から、小児科の外来診療は平日だけとなり、夜間と土日祝日の診療ができなくなりましたので、小児科の入院患者の受け入れを休止しております。

このため、分娩時に小児科医の立会いができなくなり、4月から産科を休診することとしました。なお、婦人科については、これまでどおり診療をしております。

これまで、当病院の小児科と産科をご利用いただいております患者さまには、ご不便をおかけしておりますが、他の医療機関のご協力をいただき、患者さまへの適切な対応をさせていただきます。

セット健診実施のお知らせ

お知らせ

当院では、10月までの月に1回、早朝に健康診断を実施しております。内容は次のとおりです。

健診月日
6月21日(水)
7月21日(金)
8月24日(木)
9月21日(木)
10月20日(金)

時間 6時30分～8時30分

種類

さわやか運河健診

大腸がん検診

子宮がん検診(2年に1回)

乳がん検診(2年に1回)

胃がん検診

肺がん検診、結核・肺がん検診

対象者

40歳以上の市民(職場で健診を受けられる方を除く、子宮がん検診は20歳以上)

予約

毎月初めの開院日から

連絡先

医事係(内線306・307)

樽病だより
こころ

発行

市立小樽病院

編集

市立小樽病院広報

次回発行は
7月予定です